

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 渡 邊 文 子

論 文 題 目

Quadriceps weakness contributes to exercise capacity in nonspecific interstitial pneumonia

(大腿四頭筋筋力低下は非特異性間質性肺炎の運動耐容能と関連する)

論文審査担当者

主 査 委 員

名古屋大学教授

石黒直樹 


名古屋大学教授

委 員 松田直之 

名古屋大学教授

委 員 長尾能雅 

名古屋大学教授

指導教授 長谷川好規 

論文審査の結果の要旨

間質性肺疾患における運動耐容能評価は重要視されており、運動耐容能評価である6分間歩行試験が特発性肺線維症患者の独立した予後因子であることが報告されている。また先行研究により特発性肺線維症の運動耐容能には下肢筋力が関与することが示されている。

非特異性間質性肺炎 (Nonspecific interstitial pneumonia ; NSIP) は特発性肺線維症に次ぐ主たる間質性肺炎であるが、運動耐容能に関連する因子を検討した報告はない。本研究の目的は NSIP の運動耐容能に下肢筋力が関連するとの仮説をたて明らかにすることであった。

本研究では 30 例の NSIP 患者に対し 6 分間歩行試験、肺機能、呼吸筋力、四肢筋力を測定し、運動耐容能との関連を検討した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. NSIP 患者 30 例のうち 16 例が大腿四頭筋の筋力低下を認めた。
2. NSIP の運動耐容能に関して大腿四頭筋筋力が独立した説明因子であることが示された。
3. 大腿四頭筋の筋力低下の検討では、炎症と蛋白異化との関連、腎機能低下による炎症性サイトカイン等の体内蓄積との影響について検討したが、有意差を認めなかった。また加齢や低酸素血症などの因子について検討したが関連がなく、疾患特異的なものであると考えられた。

本研究は、NSIP における運動耐容能と下肢筋力との関連を明らかにしたことにより、下肢トレーニングを主体としたリハビリテーションが有用である可能性が示唆されるという重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	渡邊文子
試験担当者	主査	石黒直樹	松田直	長尾能雅
	指導教授	長石川好規		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 非特異性間質性肺炎の運動耐容能と筋力の関連について 2. 非特異性間質性肺炎における大腿四頭筋の筋力低下のメカニズムについて 3. 非特異性間質性肺炎におけるリハビリテーションの展望について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、呼吸器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				